

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちゃお		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日 ~ 令和8年2月8日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和8年1月26日 ~ 令和8年2月8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士が個々のお子さんの個別支援計画を立案し、日々実施している。他の職員と計画書について話し合い、週案や日案に活かすことができている。	日々計画に基づいた運動を実践し、個々のお子さんの到達点と今後の課題を盛り込んだ実践ができている。	地域のコミュニティセンターやプールでの運動の機会を持ち利用のお子さんや保護者の皆様に地域でのスポーツ活動に意識を向けていただく。
2	法人主催のちゃお祭りやこども食堂の開催により、地域のお子さんや大人の方とのつながりが持てている。	当法人のこども食堂やフードパントリーを地域のお子さんと保護者の方に積極的に紹介している。地域の社会福祉協議会の会合等で紹介させていただいている。	ちゃお祭りや公園の草取り等のボランティア活動に、お子さんと一緒に役割を持って参加する。
3	お子さんの療育に欠かせない季節の行事を知ることやその行事にまつわる創作ができている。	季節の行事を認知の力、感覚、運動に結び付けた活動内容になっている。	作品の発表の場を広げて、お子さんの自信につなげていく。展覧会や音楽会に参加し、認知の力や感覚の力を充実していってもらおう。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が2階にあることで階段の昇り降りに危険がある。 引き戸に手を挟める危険性がある。	事業所の場所を法人内の他事業所と交換できるか検討していく。	階段や引き戸についての危険性について、お子さんに分かりやすく絵で示し、危険を回避できるように語り掛けを続けていく。他の子を押ししたり追い抜いたりしないマナーを身につけていただくように話していく。また引き戸に関しては、改修できるかどうかを検討する。当面の間、引き戸が閉まる部分に隙間が空くようにしておく。
2	10人以上のお子さんが集まるとプレールームが狭く感じられる。	ホールで身体を動かす遊びも、お子さんが自由にできるようになっているが、時と場合によっては、周りのお子さんの迷惑にならないようにお子さん自身が考えて配慮していけるような力をつけることが必要ではないか。	次期の行事を早めに決めて専門的支援の実施をさらに充実させていく。長期休み等のスケジュールを再検討し、内容によっては外部講師の派遣等も検討する。スケジュールによっては、地域のコミュニティセンターや体育館をお借りして、広い空間でのびのび運動を楽しんでいただく。
3	ご家族が参加できる茶話会等の開催と出席者が少なかった。	就労しているご家族が多く、茶話会等への出席が少ない。魅力的な内容にしていくことも必要ではないか。	茶話会や勉強会等の機会を多くして、参加できるご家族数を増やしていく。行事予定の日の茶話会開催等を企画する。ご家族の興味関心等ニーズを探り、企画に盛り込んでいく。